

別紙解答用紙に解答すること。

問題 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

コンテキスト=context は、本来は文脈という意味だが、ここではもう少し広い意味で、「その人がどんなつもりでその言葉を使っているか」の全体像だと思ってもらうといい。

(中略)

私の同僚の医療コミュニケーションの専門家から聞いた話。

ホスピスに末期癌の患者さんが入院してきた。50 代の働き盛りの男性で余命半年と宣告を受けている。奥さんが 24 時間、つきっきりで看護をしている。

さて、この患者さんに、ある解毒剤を投与するのだけれど、これがなかなか効かない。奥さんが看護師さんに、「この薬、効かないようですが？」と質問をする。ホスピスに集められるような優秀な看護師さんだから、患者さんからの問いかけには懇切丁寧に説明をする。

「これは、これこれこういう薬なのだけれど、こちらの他の薬の副作用で、まだ効果が上がりません。もう少し頑張りましょう」

奥さんはその場では納得するのだが、翌日も、また同じ質問をする。看護師さんは、また親切に答える。それが毎日、1 週間近く繰り返されたそう。やがて、いくら優秀な看護師さんでも嫌気がさしてくる。ナースステーションでも、「あの人はクレマーなんじゃないか」と問題になってくる。

そんなある日、ベテランの医師が回診に訪れたとき、やはりその奥さんが、「どうして、この薬を使わなきゃならないんですか？」とくっつかかった。ところが、その医師はひと言も説明はせずに、

「奥さん、辛いねえ」

と言ったのだそう。

奥さんは、その場では泣き崩れたが、翌日から 2 度とその質問はしなくなった。

要するに、その奥さんの聞いたかったことは、薬の効用などではなかったということだろう。

「自分の夫だけが、なぜ、いま癌に冒され、死んでいかなければならないのか」を誰かに訴えたかった、誰かに問いかけたかった。

しかし、その問いかけへの答えを、近代科学、近代医学は持っていない。科学は、「How」や「What」については、けっこう答えられるのだけれど、「Why」については、ほとんど答えられない。

もちろん、大ざっぱな答えは、いくらでも出せるだろう。

「この人、タバコの吸いすぎでした」

「この人は、食生活が悪かった」

しかし、同じだけタバコを吸っていても癌になる人もいれば、ならない人もいる。遺伝子の研究などがもっと進んでいけば、その説明はもう少しましにはなるのだろうが、やはり究極のところでは、「Why」に答えることは難しい。なぜなら、人間存在それ自体に、理由がないのだから。

では、「奥さん、辛いねえ」と言ったところで癌が治るかと言ったら、これはまったく治らない。しかし、ご承知のように、ホスピスは癌を治す医療機関ではないのだ。治らない癌の患者さんとその家族に、残りの半年間を充実して過ごしてもらうのが、この医療機関のスタッフの役目となる。

ただ、想像してもらえばわかると思うが、「余命半年」と言われて、「それでは、この半年間は、こうこうこのように過ごしたいです」と理路整然と言ってくれる患者さんや家族の方が稀だろう。たいていの方たちは、そのような宣告を受ければ、泣いたり、叫んだり、パニック状態に陥ったりする。終末医療の従事者は、その声なき声の中から、コンテキストをくみ取らなければならない。

(平田オリザ『わかりあえないことからーコミュニケーション能力とは何か』より)

以上

